

が私の心構えでしょうか。
「子どもと共に学び、成長する」そんな気持ちで子どもとの日々を楽しんでいます。

勝見さんは学生時代、学習塾でのアルバイトをしていた時、「自分から積極的に接しなければ子どもとの距離は縮まらない」と先輩にアドバイスを受けたことが記憶にあり、子育てにも通じるかもしれないと思っておられるそうです。離れていた時期があっても、今はとても近くに親子の心が通い合っている暖かな印象が残りました。

世話をする「親」から、 良き「相談相手」に



永井昌史さん
(北原町在住)

永井さんは、妻と小学6年生・4年生のお子さんとの四人家族です。ご夫婦は会社が同じで、お互いの忙しさをよく理解されています。「出来る方がする」といった二人三脚の子育て、そのお話をうかがいました。

家事・育児へのかかわりは？

妻の方が仕事に時間的な制約が多いので、忙しい時には、私が料理に掃除洗濯にと家事全般を引き受けます。食事は出来るだけ手作りを心がけていますが、疲れた時には冷凍食品も利用します。

育児も同じく、その時その時に「出来る方がする」といった形で臨んでいます。子どもに関わる行事では、父親の参加がまだ少ないので、係を委任されたりもします。(現在、永井さんは学童保育の会長をされています)

また、下の男の子が野球チームに入っていて、その土日の練習に一緒に参加しています。これは子育ての一環と考えていて、自分のストレス発散にもなっています。

意識の変化と行動の変化は？

私の両親が「家事は母親」という家庭だったので、結婚した時には、ポットにお湯を入れることすら知らないままでした。ただ、妻が産後休暇を終える際に話し合い、育児と家事に二人で取り組んで行く事を決めました。

最初は、料理も本を見て作るという感じで、保育園の送迎時間も早く、とにかく無我夢中でした。でも取り組んでいくうちに、家事の要領を得、育児についても、こんなに面白いものなのだと実感しました。

保育園の保護者会では、初め、周りが全員お母さんで戸惑いましたが、続けていくうちにお母さん方とも交流が持てるようになり、子ども達の顔も憶え、楽しんで参加できるようになりました。

負担に思うことや悩みは？

妻も私も仕事を減らすことは出来ません。子育てをメインにすると仕事が増え、負担になり、仕事をメインにすると子育てが負担になります。

家族と過ごす時間も、自身の自己啓発などに費やす時間も、十分に取る事ができないのが悩みです。

特に、子ども達が病気になった時や学校行事の際には、どちらが休むか、その負担を分担しなくてはいけません。けれども、とにかく早く起きてするべきことをすませる。そして、妻と話し合うことで問題の解消をはかっています。また、子どもの笑顔をみると、こうした苦労も忘れることが出来ます。